

令和4年度 第2回多治見市廃棄物減量等推進協議会の結果について

書面による回答人数： 12名

<主な承認意見>

No.	意 見・理 由
1	計画案はよく検討された内容で、食品ロス低減や近隣自治体の事業所との連携等新しい工夫も盛り込まれている。
2	令和3年度実績と令和4年度と令和5年度の計画の数字に合理性がある。
3	一部体裁の修正を依頼したいが、大枠に問題はない。⇒体裁は修正
4	大きな変更はないので、承認する。
5	特に問題なし。
6	納得できる内容で、し尿処理、汚泥等、どうしたら減量できるのか知らないことも多くある。
7	収集カレンダーのイラストが変更になり、市民の困りごとに対応している。このような計画で数字になっていると参考にできる。
8	年間を通じてごみ減量がよく考えられていると思う。
9	過去の実績を考えれば、このような計画になると思う。
10	一般市民にも単年度ごとに一般廃棄物の排出状況や処理状況が分かれていた方が見やすいと思う。
11	特になし。

<検討した部分と修正結果>

No.	検討前	結果
1	P6の表内 収集方法の欄 「ごみのみを収集する」	「ごみを収集する」に変更。
2	P6同上 動物の「死体」と「死骸」の使い分け	明確な区別がないので「死体」で統一
3	P6 8) ①「市内スーパー等から出る残菜、残飯は～一般廃棄物再利用計画書に基づき」とあるが、産業廃棄物ではないか。	スーパー等から出る残菜、残飯は、「事業系一般廃棄物」であることを記載。
4	P10 3) ア) ③ 笠原クリーンセンターの残存容量について、疑義がある。	平成25年度に「笠原クリーンセンター埋立処分計画」を作成時、測量調査した結果、残存容量の数値が変更となった。

<そのほか>

No.	意 見
1	食品ロス削減にむけての取り組みが増えるのは良いと思う。事業所だけでなく、一般家庭でも出来る食品ロス削減について、もっと情報発信、講座開催等していくとよい。
2	エコカレンダーにあるごみ減量のヒント等取り組んだ感想を作文にして発表したり、成功例や個々の工夫を市民にスローガンや標語を募集して、目につくところに掲示してはいかがか。
3	高齢者が市民でも増加し、認知症高齢者世帯への相談やごみ処理等気軽に利用できる制度を知りたい人が多くいるのでP R（回覧やチラシ等）が必要。
4	フードバンクの食品受け取りは年間を通じて行ってほしい。募集期間が短かすぎると思う。
5	ボランティア袋を町内の高齢者世帯を近所の人を手伝いで断捨離する際に使えるようにしてください。
6	市民にごみ減量意識を喚起するために、「重点的に取り組むごみ減量施策」が1～6（P11）まで取られているが、これらの検証は行われているか。これらの結果を市民に届けることで、市民のごみ意識がより高まるのではないか。
7	フードロス削減事業等、協力させていただけることがあれば実施させていただきます（ピアゴ多治見店店長）
8	個人的に道端にあるペットボトルが気になる。拾える場所でないと、やがて雨に流され海にたどり着いて鯨の腹から現れてくるのではないかと恐れる。
9	けやき通りや周辺の河川沿いにゴミ拾いをしている男性に感謝したい。路上には落ち葉類とプラスチックごみが多い。自分は駐車場ならば拾うが、走行中に気になっても、ごみを拾うことはない。子ども達には、本来の「捨てない心」を育てたいと思う。
10	10万人都市で毎日90トン以上も出される廃棄物処理に感謝したい。市民ひとりひとりに出来ることを少しでも発見、自覚したい。
11	ペットボトルよりもアルミ缶（蓋つき）を意識して購入しようと思う。プラスチックのリサイクルにも限界があると思うようになった。
12	市民一人一人がごみ減量を常に頭において、日々生活すべきだと思う。
13	（尾張東部衛生組合への破碎ごみ搬入について）コストが削減ができるのならばするべき。多くの公共事業や設備投資ができるように市は蓄えるべき。